

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム 本巣ひまわり		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1 (電話) 058-320-5020		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	平成19年12月19日

【情報提供票より】 (平成 19 年 4 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 4 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 9 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	14.1 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,000～ 円	
敷 金	有 (契約金100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (75,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 4 月 1 日 現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	6 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀部クリニック・岐阜中央病院・なかむら歯科・揖斐厚生病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は囲まれ、近くに小学校や神社があるが、民家とは少し離れた位置にある。広い敷地を活かし、コの字型に向かい合う3棟は独立した平屋建てである。この構造から利用者の移動に制約が無く、中庭での花への水やり、近くの神社への散歩等外気に触れる機会が多い。家庭的な環境で、自立した生活の再現に向けての介護サービスの提供は、介護過多に陥ることを避けながら安全への見落としがないように、見守りに特別な注意を払いサポートする支援としている。経営者、管理者は共に、先進施設の見学、記録類の整備や管理、看護師の常勤や看取りの実施と多くのことに取り組む熱心な姿勢があり、職員もひたむきな姿勢で支えている。利用者は自由に暮らし、穏やかな表情である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	長期間の課題である、ドアが1つで便器が2つあるトイレについては継続的に検討中である。カーテン等の工夫も利用者が支え代わりに使う等危険があり、引き続き検討中である。栄養バランスは、記録に残す、体重を測定、成分に注意する等配慮している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	改善課題は、改善計画を作り、計画・実行・確認を行うことを事業所として定め、取り組んでおり、前年度の課題は必要順位を付け解決に管理者・職員一体となって取り組んできた。長期課題もあるが、今回の自己評価での気づきを職員で話し合い、運営推進会議にあげて検討していく姿勢である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の委員に老人会長が加わり、ホームと地域からの情報が交換されたり、協力を得られるようになってきた。運営推進会議で話し合われたことが地域に伝わり、理解も広まっている。夜間の台所に、食事摂取制限の必要な利用者が自由に出入りできることへの害を話し合い、扉の取り付けと夜間の施錠を取り決め、改修を行った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は面会時や電話連絡時に聞き取るように配慮しており、苦情としてはあがってきていない。家族会や運営推進会議での家族の意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近くの小学校との交流や地域の役員が参加する運営推進会議の開催、ホームから自治会の夏祭りや交通安全指導に参加する等で日常的な地域との交流が進んできた。消防団の協力を得ることができたり、元消防署職員が職員に加わることで防災時の対応も取り組みが充実してきている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で慣れ親しんだ生活様式をできるだけ取り入れ、利用者の持てる力が発揮されるよう、利用者本位を支援の柱とし、『見落とさず』『いつでも支える』『見守り重視』を基本とした理念の実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と、それに基づく基本方針を、ホーム内の見やすい位置に掲示している。又、職員研修マニュアルにも記載し、学習会での確認や日々の申し送りでの取り上げ、実践に向け活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元老人会や自治会との交流があり、各種行事に参加している。また、近所にある小学校とは、運動会に招待されたり、花の苗をもらう等の交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部の評価課題は改善計画を作り、計画・実行・確認を行うことを事業所とし定め、取り組んでいる。又、運営推進会議でも取り上げ話し合っている。トイレの改修は、構造的、費用面から困難な課題とし残している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、議事録もある。委員には家族の代表、民生委員、区長、包括職員に老人会長が加わり、地域の情報をより多く得るようになってきた。ノロウイルス対策や評価の報告・検討等を行い、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは、毎月ひまわり通信と、ホーム活動状況を報告している。『認知症家族を支える相談所』の受諾、『介護相談員』を受け入れたり、民生委員や市の担当者等と密に連絡を取り、情報を交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真入りのひまわり通信にホーム全体での暮らしぶりや行事での様子、新任職員の紹介等を報告している。特別な状況が生じた時は電話で連絡している。金銭は「立て替えを原則」としているが、本人や家族の希望で、現在3名が個人で小額を管理している。	○	家族内の連絡周知の方法はさまざまであり、報告の行き違いを防ぐため、口頭で伝えたことを記録に残したり、個別宛の身体状況の情報も通信に記入する等の取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族環境は多様で、人間関係も様々であり、家族との関係づくりに努めており、家族のホーム訪問時に職員からの話しかけや電話での連絡に努め、意見をきいている。家族会や運営推進会議での家族の意見も運営に反映している。	○	更には、家族会で意見が言いやすい場面づくりや雰囲気工夫、訪問時等の短い時間の中で、意見を引き出すために、職員のゆとりのある対話や行動等も期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の定着者は多い。利用者が新任職員と無理なく馴染んでいけるように、新任者へ管理者・先輩職員から細かな指導があり利用者との関係づくりを見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、年2～3回の外部研修に参加している。直近では、感染症対策の外部研修に看護師を含む4名参加し、内部指導に当たっている。内部研修も随時行われ、新任職員には、利用者との接し方について細かく指導がある。経営者は職員の資格取得を支援し、職員も意欲的である。	○	各ユニットで、提供する介護サービスについて話し合うミーティング等を設け、職員間での育成もあると良い。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、先進施設の見学や新規開設者の相談に応じると共に、情報の交換も行っている。又、岐阜県グループホーム協議会においてもネットワークづくりに積極的な役割を果たしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は、家族と共に実際の生活場面や環境を見たり、本人と家族を共に精神面からも支え、納得した上で入居できるように支援している。入居初期は、生活に馴染んでいけるよう十分に見守りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことをやってもらいながら、喜び、学び、共に支え合っている。野菜の世話や収穫、花木を育てたり、掃除機での掃除も職員と共に行っている。共に行うことで、教えてもらったり、感謝の気持ちを伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活を支える為に情報が大切であることを家族に説明し、入居前の関係医療機関からの情報等、多くの関係者からの情報収集に努めている。新聞の購読、煙草、お酒の嗜好等、周囲の利用者との関係に配慮し支援している。現在、喫煙や飲酒の希望者は無い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝、各ユニットの当日担当者が管理者と共に一箇所に集まり、申し送りを行い、全体を把握できるようにしている。家族からの意見もできるだけ聞く機会を設け、計画に取り入れている。	○	現在、申し送りは管理者と各ユニットの当日担当者間で行い、各ユニットに周知、伝達される。更には、ユニット内でミーティングを開催し情報の把握・検討やケア内容の確認等がユニットの職員で行われることも望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があれば、関係者と相談し、適宜見直しを行っている。また、介護計画の点検を3ヶ月ごとに、定時見直しは6ヶ月ごとに行い、特に問題が無ければ、1年で見直しを行っている人もいる。	○	利用者の入居期間が長くなっているため、更には、今後の予測されるリスクの対応も含めた介護計画、目標設定等も配慮した見直しと見直しの期間を検討されたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の介護相談を行っていることやグループホームの知識を他のホーム関係者や行政にも伝達している。常勤の看護師がいることで、健康相談や協力医療機関以外への受診相談や支援もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や他の専門科医への受診を家族と協力しながら送迎、通院支援している。口腔内の健康を基本と考え口腔ケアに力を入れ肺炎の利用者が少ないことに自信がある。歯科医とも連携し、全員の検診を行い、必要な方には訪問診療が行われる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時、ホームでできる事とできない事を説明し、その場面が訪れた場合は、改めて本人・家族、医師、看護師、職員が終末に向け話合っ方針を共有する。家族と同意書を交わすこと、医師と書面を交すこと等看取りの手順を定め実施している。これまで6名の看取りを経験した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄支援に対しては、誇りを傷つけない言葉かけを心がけている。ハード面では、トイレが2つの便器共用仕上げで、プライバシー上の課題がある。現在は、2人同時に使用しないように配慮した対応をしている。記録類は、専用ロッカーで管理している。	○	構造上の課題は、色々なハードルがあるが、介助される利用者に配慮した改善に向けての取り組みが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の都合を尊重する方針を持っており、食事・排泄・入浴などで、利用者のペースで支援している。廊下を常時往来する人もおり、疲労や苛立ち、気分の変化等様子を見守り、声掛けや椅子を勧める等色々工夫しケアする様子が見れた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて、できるだけ献立に取り入れている。ユニットごとにメニューが異なり、彩り良く器に盛られた食事が食卓に並び、食べ残しもほとんど無い。又、各ユニットの職員が食材の買出しに出る場合には、希望がある利用者1~2名の同行もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週2回は入浴してもらえるように、入浴拒否のある場合も曜日を変えたりし支援している。自立入浴できる人は、希望があれば、シャワー浴等を含め毎日でも可能である。男性・女性の介護職員がおり、利用者の希望に沿って対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力や好みに合わせ、中庭の花の手入れ、種まき、洗濯干し、カレンダーや雑巾づくり等多くの役割や楽しみを取り入れることに努めている。又、桜・ひまわり・紅葉等の花見やサーカスを6回に分け見に出かける等支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社への散歩コースは人気があり日常的に出かけている。神社までも出られない方は、中庭にある花を見たり、ベンチに座り外気に触れる。日常的に居室から出ることが難しい方も、体調が許せば、家族や職員の協力で季節を感じる外出の支援を受けている。	○	今後も、利用者が重度化したり、日常の天候の関係で時間を要する散歩もままならない傾向にあるが、中庭に出る、ホームの門の外に立つ等の短い時間であっても外気に触れる時間を作る工夫を行う等、今の取り組みの継続が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、ユニット間の往来、中庭への出入りは自由になっている。利用者の中の4~5名は徘徊のため注意が必要であるが、正門のオートロックと行動を「見落とさない」ように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋に防災避難訓練を行っている。救出者確認用の名札を作ったり、夜間の緊急を想定した職員集合の確認等、具体的な想定での対応に取り組んでいる。職員に消防署の退職者があり、防火・消防対応のアドバイスを得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、職員も共に食することで、栄養バランスは、およそ把握している。毎月の体重測定、糖尿者向けのメニューや嚥下力に配慮し、個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作った季節の作品を壁に飾り、ソファからは窓越しに外の景色が眺められる。3ユニットが囲む中庭には、利用者と共に色塗りしたベンチやテーブル、花のプランター、遅咲きの朝顔が咲き誇り眺めがよく快適な共用空間となっている。不快な音や光り、臭いもなく心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、木製のクローゼット、洗面所が設置されている。利用者の使い慣れた小物類、写真が持ち込まれ、自分の作品などを飾り、その人らしい居心地のよさに配慮している。なお、安全にも配慮し、搬入量については家族とも相談しながら行っている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。